

学 上野小6年生が卒業制作 学校生活に想い馳せ上野焼・陶板を制作

上野小の6年生10人が、11月22日に同校伝統の卒業前行事として「上野焼の陶板制作」を行いました。上野焼協同組合に参加する、守窯・熊谷守さんと渡窯・渡仁さんの優しい指導を受けながら、それぞれの誕生花を掘り進めた子どもたち。残り少ない小学校生活をかみしめるかのように、丁寧に作業を進めていました。



↑子どもたちが制作した陶板は、完成後、同校プール横に掲示される予定。

↓マスタードなどの香辛料を効果的に使い、塩分を減らすことが「スマソル」の肝。



減 スマソル教室 塩しても美味しいレシピで健康づくり

スマートにソルトを使う料理を学ぶ「スマソル教室」が、12月16日に金田保健センターで開かれました。参加者15人は、町の食進会メンバー・管理栄養士・調理師による指導の元「鮭のマヨマスタードのホイル焼き」を調理。完成後に実食し、塩分少な目でも工夫すれば美味しく調理できるということを体感していました。

↓無意識の偏見に気づく価値の提唱やLGBTQの啓発を行っている荒川さん。



尊 人権講演会「性の多様性と人権」 厳を持って生きられる社会を目指して

OVER THE RAINBOW 代表の荒川明楽さんによる「人権講演会」が11月29日に地域交流センターで行われました。少しでも性について自分事として取り組んでもらえるよう、「性の多様性と人権」をテーマに実例を交えながら講演。参加者298人に「すべての人が尊厳をもって生きられる社会作りが重要」と呼びかけました。

郷 「方城大非常」授業 土史から学ぶ命の尊さと教訓の大切さ

日本最大の炭鉱爆発事故「方城大非常」を学ぶ授業が12月16日に伊方小で行われ、伊方・弁城小の6年生36人が参加しました。同事故で祖父を亡くした白石紀文さんが登壇し、事故の経緯や遺族の想いなどを説明。子どもたちは終始真剣に耳を傾け、命の尊さや過去の教訓を忘れない事の大切さを心に刻んでいました。



↑白石さんが長年収集してきた当時の写真や物品、自作の紙芝居を用いて説明。

↓最優秀賞の久富さん(2列目中央⑤)は、来月16日に地域交流センターで行われる田川大会に出場します。



胸 第19回 福智町少年の主張大会 中の想い自らの言葉で表現

青少年育成町民会議主催の「少年の主張大会」が12月22日に地域交流センターで開かれ、各校の代表者8人が夢や社会への意見、日々の想いを堂々と発表しました。「挑戦すること」をテーマに、自分の体験から得られた事と今後の抱負を述べた、方城中2年生の久富萌奈実さんが最優秀賞を受賞。他の発表者7人にも優秀賞が贈られ、会場は大きな拍手に包まれました。

社 市場小学校「租税教室」 社会を支える税金を正しく学んだ教室

税金の意義や役割、仕組み等を正しく理解してもらうことを目的に市場小の6年生57人を対象とした「租税教室」が11月29日に行われました。税についての授業や税金の使われ方を知る動画などで学習した子どもたち。税金の基礎知識や使われ方など正しく学んでお金の大切さと納税者意識を育んでいました。



↑カノアラウレアーズ福岡の選手と1億円の重さ(約10kg)を体験する生徒たち。

↓読み手・作り手の想いを知ることができ、さらに関心が上がったと語る伊藤さん。



多 伊藤大翔さんの卒論制作 角的視点で考えた広報紙の存在意義

久留米大学敷設中学校・3年生の伊藤大翔さん(赤池)が、卒論「福智町における広報紙の存在意義～過疎地域の抱える問題を踏まえて～」を制作しました。約半年間、住民や関係者などへの取材を経て50ページもの論文を執筆した伊藤さん。今回の経験を糧に「将来は人のためになる職業に就きたい」と目を輝かせました。